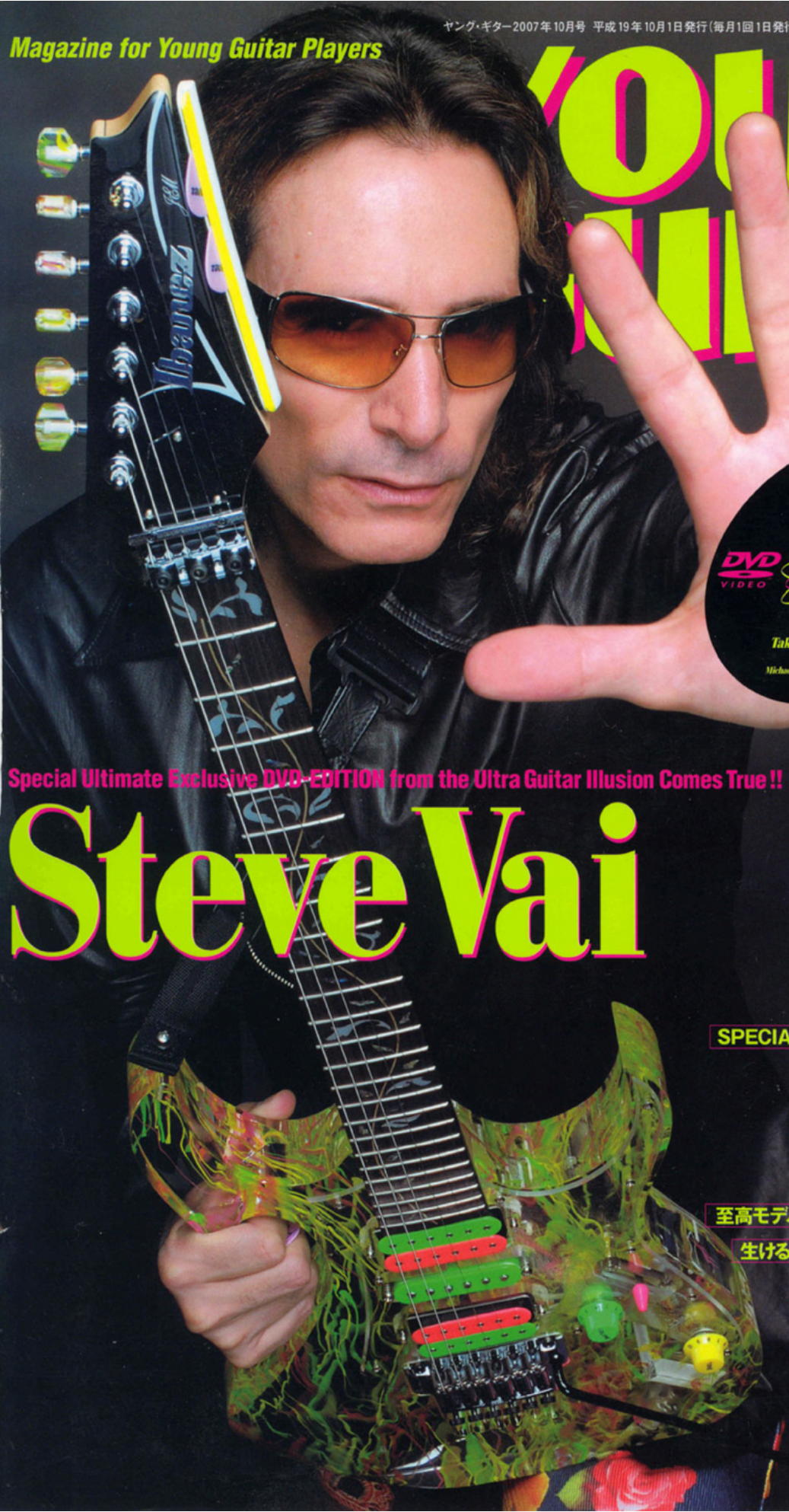


Magazine for Young Guitar Players

ヤング・ギター 2007年10月号 平成19年10月1日発行(毎月1回1日発行) 第39巻・第10号・通巻554号 昭和47年10月2日第3種郵便物認可

YOUNG GUITAR

10
OCTOBER
2007



遂に実現!!

● 特別付録 ●
SPECIAL DVD
[2007 Oct. Issue]

★ “究極の奇才”、待望の本誌DVD初登場!!
スティーヴ・ヴァイの映像運動企画、必見!!

Special Ultimate Exclusive DVD-EDITION from the Ultra Guitar Illusion Comes True!!

Steve Vai

Brian Setzer
Joe Satriani
Jennifer Batten

SPECIAL DVD-EDITION Takayoshi Ohmura
Oz Noy

SUMMER SONIC WACKEN OPEN AIR
ARCH ENEMY HIM HANOI ROCKS
MOTÖRHEAD THE ANSWER 筋肉少女帯

至高モデル特集 **ハイクラス・ギター展示会**
生ける“ファズ伝説” **名器検証: Big Muff** 兀
特別奏法企画 **激突!! 内弾きvs外弾き**

THE SCORE

STEVE VAI「Answers」
RICHIE KOTZEN「Go Faster」
LINKIN PARK「What I've Done」
BLACK SABBATH「Neon Knights」

[Special Hardware Edition] 高品質ハンドメイド・ブランドの魅力を検証

THE GALLERY OF HIGH CLASS GUITARS

featuring

SADOWSKY NYC / JOE GUITAR / STEVENSON GUITARS /
SUHR GUITARS / XOTIC GUITARS / MELANCON GUITARS /
JAMES TYLER / TOM ANDERSON

ハイクラス・ギター展示会 ～匠の技を込めた至高モデルたち～

現代のギター市場において様々なギタリストの注目を集めている
小規模ハンドメイド・ブランドによるハイエンドなギターの数々。
高名なクラフトマンのこだわりを余すところなく凝縮した結果生まれた
高い品質や独自のアイデアには、ギタリストなら見逃せないものがあるはずだ。
今回はそんな計8ブランドのギターを徹底試奏。その魅力に迫る!!

文●安保亮 Akira Ambo、ヤング・ギター編集部 YOUNG GUITAR

本企画の主旨 超一流ギター・ビルダーのこだわりを感じ取る!

世界には超一流と呼ばれるに相応しいギター・ビルダーたちがいる。彼らは日々「世界最高」「史上最高」のギターを目指し、労力を惜しまず魂を込めて製作に動んでいる。もちろん一流の職人が手間を掛けている分、完成品は高額となるが、それは単なる手間代ではない。トップ・ビルダーならではの工夫、独自の機能などが随所に盛り込まれ、高いプレイアビリティや素晴らしい音となって反映されているのだ。そういった入魂のハンドメイド・ギターこそが、トップ・ギタリストたちの要望を満たせるのである。今回はそういったハイクラスなギターを、下に掲載している合計8機種集めて徹底分析した。

実際に弾いた感想を先にお伝えすると、当然ながらブランドごとの個性はかいま見えるのだが、それ以上にどのギターにも共通して感じられる要素があった。それはあらゆるギタリストのシビアでわがままな要求を満たす、“汎用性”を持っている点だ。つまり様々なジャンル、状況、サウンド…そのすべてに対応できるギターを作ろうとしているかのような印象だ(トップ・ビルダーが知識と経験を詰め込めば、自ずと万能なギターになるのかもしれないが…)。機会があれば一度、楽器店などでこれらのギターを手にとってほしい。ギターという楽器のあり方を改めて考えさせられることは間違いないだろう。



▲▶最高の職人の高い技術により、抜群のプレイアビリティを獲得している他、独自の特殊なコントロールを搭載している機種もある。

3シングル・タイプ		S-S-Hレイアウト・タイプ			2ハム・タイプ	多機能搭載タイプ	
SAPOWSKY NYC Chambered Vintage ST	JOE GUZAR Hot Rod Gray	STEVENSON GUITARS Pop Classic Custom	SUHR GUITARS Pro Series	XOTIC GUITARS XS-2	MELANCON GUITARS Master Artist TL Proto-Type	JAMES TYLER Studio Elite	TOM ANDERSON Drop Top Classic
→P.42	→P.43	→P.44	→P.45	→P.46	→P.47	→P.48	→P.49

試奏環境とテスト・プレイヤー紹介 共通のセッティングを用い、2つの異なる視点から各モデルを分析

今回の試奏では、多彩なサウンドを1台で実現できるマーシャル“JVM”を使用した。このアンプはトーンもボリュームも完全に独立した4チャンネル仕様で、それぞれがゲインの異なる3つのモード(グリーン/オレンジ/レッド)を持っている。実際にメインで使用したのは、最も歪みのないサウンドが得られる[CLEAN]チャンネルのグリーン・モードと、オーソドックスなディストーションが得られる[OD1]チャンネルのオレンジ・モードで、必要に応じてさらにハイ・ゲインなレッド・モードも試してみた。また、ツマミのセッティングはおおむねフラットなサウンドが得られるよう、右写真の位置ですべて固定している。

ちなみに試奏に当たっては、ややエンジニア的な視点でギターを見る筆者に加えて、トップ・プロの視点から判断してもらうべく、ギタリストの西山 毅にも参加していただいた。次ページからは前者の分析を“YG's Comment”、後者の感想を“Nishiyama's Impression”として記載している。

〈西山 毅プロフィール〉

22年に渡りハウンド・ドッグのギタリストとして活躍。日本屈指の高い技術を駆使し、独自の両手タッピングからベンチャーズまで幅広いギター・プレイをカヴァーする。今年6月に全曲ギター・インストのミニ・アルバム「虎音[HU-YIN]」を発表しており、今後新たなヴォーカル・ユニットも始動する予定。



▲試奏に用いたのは上段の2つのチャンネル。[CLEAN]はトーンを5、[OD1]はトーンを10付近に固定した。

「虎音[HU-YIN]」／西山 毅
(07年/A-STRING [G] YZAS-2)



▼試奏に用いたマーシャルのヘッドはJVM1960T。4×12インチのキャビネット「JCM900 LEAD-1960T」も本誌掲載した。

Nishiyama's Impression



かなりブライトで硬めの音質が個性を主張しています。特に歪みセッティングで弾くと、サウンドは結構ドンシャリ気味。中音域よりも高音域の辺りが強調される感じですね。

僕が特にオススメしたいのはハーフ・トーンにした時のサウンドです。普通のストラト系モデルでハーフ・トーンを出した時に感じられることの多い、音が曇ったような印象がない。輪郭がクッキリしていてシャープで、これはこのギターならではの特筆点だと言えるでしょう。このセッティングは、ロック系のリフを弾く時なんかにマッチしそうですね。

SPECIFICATIONS

- Body: Alder (center), Ash (side)
- Neck: Hard Maple
- Fingerboard: Indian Rosewood
- Fret: 22
- Bridge: GOTOH Synchronized Type
- Tuner: SPERZEL Locking Tuner
- Pickups: JOE GUITAR Original Single Coil X 3
- Controls: Volume, Tone X 2, 5-Way Pickup Selector
- Price: ¥388,500

YG's Comment

一般的なシングルコイルのイメージを強くデフォルメしたかのような、ブライト&トレブリーなサウンドが非常に印象的なギターだ。繊細で明るく、特にハーフ・トーンでのサウンドは絶品。また、ブルース、カントリー、フュージョン系に最適なダイナミックなレスポンスを持っている点にも注目。あくまでもストラト・シェイプのギターが本来担当すべきサウンドを追求しており、「シングルコイル・サウンドはこれを使えば何の問題もありません。ハイ・ゲイン系は別のギターをどうぞ」という製作者の考え方がひしひしと伝わってくる。

アンプを通さずに弾いた時の生鳴りの良さも特筆だろう。厚めのヘッドを採用することでサステインを確保し、スパーゼル製ロック式ベグを装備することでピッチを安定、チューニングの狂いを抑える……といった狙いが如実に反映されている。

その他のスペック面では一見際立った特徴がなさそうだが、スタンダードな仕様を元に全体として高品質になるよう押し上げているような印象だ。例えばヴォリューム&トーン・ノブはトルクが程良く重めに調整され、中途半端な位置でもしっかり固定でき、尚かつ滑らかに動かすことができる。また一般的な4点ボルト・オンに見えるジョイントは、実はヒールの1弦側を薄くした独自の形状で、カッタウェイに3D的な処理を施してある。サテン・フィニッシュのネックの手触りと相まって、ハイ・ポジションでの弾き心地も良好だ。さらにボディはグレーの艶消しフィニッシュで、これなら高温多湿な日本でも常にサラサラな感触を保てる。細かいようだが、こういったメンタル面のケアもギタリストには重要で馬鹿にできないのだ。



▲王道の6点支持シンクロナイズド・トレモロ・ユニットを搭載。チューニング精度と操作感が素晴らしい。



▲何の変哲もないボルト・オンに見えるが、1弦側を薄く削る独自の立体的なコンター加工を採用するなど、高いプレイアビリティを実現。



▲オーソドックスなパッシブ・タイプのオリジナル・シングルコイル・ピックアップを採用。これは繊細だがコシのある、絶品ハーフ・トーンの要因となっているようだ。



▲厚めのヘッドにスパーゼル製ロック式ベグを搭載。ギター全体の精度を高めることによって、シンクロナイズド・トレモロのギターに付き物のピッチの不安定さを解消。

JOE GUITAR: Hot Rod Gray

ジョー・ギターはビルダーや本拠地の詳細が公表されていないミステリアスなブランドだ。しかしながらそのギターに込められた高い技術力が、様々なギタリストたちから注目を集めている。

ブライトなシングルコイル・サウンドに自信を持つ高品質モデル

GALLERY-02

Nishiyama's Impression



ジェームス・タイラーって、スタジオ・ミュージシャンが多く使っているという認識があるんですよね。1本のギターで色々な音を出せるというフレキシブルさから考えれば、それも納得。
ストラト・シェイプのギターって「音が硬い」というイメージがあるでしょう。そういう「らしさ」はこのギターにもあるんだけど、ミニ・スイッチやブースト・スイッチの操作で中音域をしっかり出してくれるし、そのおかげでレスポール以上に太い音が出せるのが嬉しいです。エリック・クラプトンのウーマン・トーンみたいな甘さだって、このギターならお手のものって感じ！

SPECIFICATIONS

- Body: Mamywo (back), Exotic Maple (top)
- Neck: Maple
- Fingerboard: Maple ■Fret: 22
- Bridge: WILKINSON VG300
- Tuner: SPERZEL Locking Tuner
- Pickups: JAMES TYLER Original Hum Cancel Single Coil X 2 (front & center), Studio Elite Humbucker X 1 (rear)
- Controls: Volume, 5-Way Pickup Selector, Lead/Rhythm Switch, Series/Split/Parallel Switch X 3, Mid Boost Control, Mid Boost Preset Button
- Price: ¥811,650

YG's Comment

ボディ・トップに貼られたエキゾチック・メイブルの、美しい模様が目を惹く1本。バスウッド系のマムヨという聞き慣れない木材をボディ・バックに使用しているジェームス・タイラーだが、その他にも一般的なギターとは一線を画す様々なスペックが目白押しだ。

まず個性的なシェイプのヘッド。かなり大きめだが、不思議と持った時のバランスは良い。どうやらこの大きなヘッドは、真っ直ぐ伸びる安定したピッチとサステインにも寄与しているようだ。そしてネックはやや三角っぽい細めのものを採用しており、ハイ・ポジションの指板の角には、滑らかな面取り加工が施されている。全体の感触としてはあくまでノーマル志向で、弾き手を選ばないタイプだ。その弾き心地には誰もが納得するはず。ジョイントはオーソドックスな4点ボルト・オン方式だが、絶妙なスラント加工が施されているため、ハイ・ポジションを弾く時もヒールの存在が気にならない。

最も印象的なのが、ピックアップ&コントロール周辺だろう。まずピックアップのすべてが弦に対してスラント(斜め)気味に搭載されており、サウンドに微調整が加えられている点が細かい！ また、実はフロントとセンターはダブルコイル仕様で、ハム・キャンセル用コイルがピックアップ裏に内蔵されており、リアのハムバッカーと共に「シリーズ/スプリット/パラレル」という3種類の選択が可能となっている。どの状態からもリアに切り替えられるリード/リズム・スイッチと組み合わせれば、ライブでの機動力も問題ない。1本でジャズからメタルまで、あらゆるジャンルで最高のトーンを実現する究極のギターと言える。



▲左の白いボタンはフロントのオンオフで右側のノブはブースト量を設定。左上はリード/リズム・スイッチ。3つ並んだミニ・スイッチはシリーズ/スプリット/パラレルのシリーズ/スプリット/パラレル切り替え角だ。その他はボリュームと5ウェイ・ピックアップセレクター。



▲ピックアップはすべてスラント気味にマウント。スムーズに伸びたロー・エンドと、明るく抜けの良い高域を両立している。ミドルの太さも素晴らしい。



▶スムーズなアーミングと安定したユニオンを重視するウィルキンソン製の6002トレモロ・ユニットは、もともと同社のギターのために開発された。

JAMES TYLER: Studio Elite

カリフォルニアに拠点を置くジェームス・タイラーは、独特な材のチョイスや高い機能性が、マイケル・ランドウを始めとするスタジオ系ギタリストから厚い信頼を得ている老舗の高品位メーカーだ。

GALLERY-07

様々な独自スペックを抜群のバランス感覚でまとめた高性能モデル